

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定会議（外部委員会）

令和7年度第5回委員会議事録

日時令和8年(2026年)3月23日(月)

14:00~16:00

会場鎌倉商工会議所 301 会議室 (zoom 併用)

1. 出席者

委員長	金子雄一郎（社会資本マネジメント）
副委員長	勝地弘（道路）
委員	出雲淳一（道路）
	堀江信之（下水道・河川）
	飯田晶子（公園・緑地）※zoomによる出席

鎌倉市 事務局

都市整備部（下水道河川課）	杉浦次長
都市整備部（都市整備総務課）	高橋次長
都市整備総務課	横山担当係長
	永井

施設所管課

都市景観部（みどり公園課）	田中次長
環境部（環境施設課）	不破次長、鬼頭課長補佐
道水路管理課	伊藤課長
道水路調査課	下澤課長
道路課	秋山課長、佐野係長
下水道経営課	岩崎課長
農水課	太田担当課長、菊池担当課長
作業センター	小田切所長
浄化センター	森田所長

事務局（コンサルタント）

八千代エンジニアリング株式会社※zoomによる出席

2. 議事

- 1 諮問
- 2 将来経費について
- 3 計画改訂（素案）（案）について
- 4 その他
 - ・ 今後の予定など

3. 委員会資料

- ・ 資料 1-1（パブリックコメント）計画改訂（素案）へのご意見と対応について
- ・ 資料 1-2 パブリックコメント資料
- ・ 資料 2 庁内意見及び回答
- ・ 資料 3 計画改訂（素案）
- ・ 資料 4 概要版（素案）
- ・ 資料 5 答申（素案）

4. 開会あいさつ等

～開会、資料確認、傍聴者入室について確認～

～傍聴者入室～

～令和7年度第4回委員会（令和8年（2026年）1月9日）の議事録確認～

- ・修正なしで確定することとした。

5. 審議内容

(1) 鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画（素案）に対する意見公募手続き等（パブリックコメント等）の結果について

- ・事務局：～資料1-1、1-2に基づき、パブリックコメントの結果について説明～

1件の意見書において以下の7項目の提案がありました。

1点目、優先順位設定に景観・観光・生活・防災の説明項目を明示すること。2点目、鎌倉高校前踏切周辺を重点管理地点モデルとして位置づけること。3点目、情報化を説明責任と継承に資する記録標準様式として整備すること。4点目、市民協働を小さく始めて定着させる段階的方式で進めること。5点目、近隣自治体の知見を鎌倉型に翻訳して取り込む仕組みを設けること。6点目、先行地区での試行評価を経て段階的に拡大する実装方針を明確にすること。7点目、全施設横断的な予防保全体系化とライフサイクルコスト管理を導入することです。

これらに対して、本計画はインフラ全体を俯瞰するものであるため特定の地点のモデル化など直接の反映は行いませんが、景観・観光は今後の課題として捉え、その他の提案についても今後の個別施設計画等で具体的な管理手法を検討する際の参考とさせていただき旨を回答としています。

- ・委員長：ただいまの説明に対してご意見をお願いします。
- ・委員：1点目の鎌倉高校前の踏切周辺の重点地域モデル化について、アニメの聖地として人が滞留して危険である点や災害時の避難経路等の観点があると思いますが、どういう観점에서モデル化を想定しているのか具体的な記載があったのでしょうか。また、3点目の「情報化を『説明責任と継承』に資する記録標準形式として整備する」とは具体的にどういうことでしょうか。ホームページで公開するような資料にすることなのか、特別な仕様を求められているのかお伺いしたいです。
- ・事務局：お手元の資料1-2の6ページに提案の具体的な内容が記載されており、目指すべき姿として住民の生活動線・交通安全の確保など4項目が挙げられています。本計画では特定の地区を限定して管理することはしないため、個別計画を検討する際に視点として参考にさせていただき趣旨で回答を作成しました。提案3の標準様式については、データをまとめる際にどのような内容を記載すべきか精査しながら進めるため、その際の参考にさせていただきと考えております。
- ・委員長：今後、具体的な検討を行う上で御意見を参考にさせていただきことで、本文に直接追記することはしないということですのでよろしいでしょうか（委員了承）。
- ・事務局：～資料2に基づき、庁内意見照会の結果について説明～
全庁に向けて意見照会を行い、関連計画（公共施設等総合管理計画など）との整合性や、次年度の機構改革を反映した課名の修正などを行いました。なお、すでに決算が確定している令和6年度の決算値の反映を求める意見がありましたが、多岐にわたる施設の決算値分析や将来経費の再計算等にかかる作業時間を考慮し、実績額の整理は令和5年度までとする旨を回答としています。
- ・委員長：ただいまの説明に対して委員の皆様から質問やご意見はありますでしょうか。
- ・委員：庁内意見にあった令和6年度の決算値データについて、決算確定前であっても予算や事業計画の見込み数値を仮に入れておけば、次の計画への継続性、繋ぎとして良いのでは

ないかと思えます。後日決算確定後に数字を置き換えるかどうかは、作業が可能であればよければよく、次回は10年分の実績として含めて議論ができた方が良く感じました。

- ・ 事務局：ご指摘の通りです。10年近くのをまとめて決算値も含めて振り返るのは労力がかかるため、次回の改定に向けては年度ごとに決算値を整理していくことを考えたいと思います。令和6年度の実績も早いうちに整理することを検討します。
- ・ 委員：概要版の10ページ、表になっている部分の公園・緑地分野の施策から「市民協働」という言葉が削除されています。公園・緑地の維持管理において市民協働は非常に欠かせない視点であり、これを削除して民間事業者とするのはもったいないと感じます。重点施策としても残していただきたいです。
- ・ 委員長：経緯を事務局から説明していただけますでしょうか。
- ・ 事務局：ボランティア団体等による活動に対して専門的知見による細かい指導等を行えていないため、具体施策として現状で動き出せているものがない想定であったため市民協働という文言は削除しました。道路分野ではLINEを活用した通報システムなど市民に関わっていただく取り組みがあるため残していますが、公園緑地については具体的な取り組みとして動き出せるところがないため民間事業者の活用という言葉を残しました。
- ・ みどり公園課：ご指摘の通り、特に緑地に関しては市民団体の力が大きく、参加が必要不可欠なものになっているのは事実です。緑地の方だけでも市民協働を残す方向で前向きに検討いたします。

(2) 答申について

- ・ 事務局：資料5に基づき、答申（素案）について説明～
1月9日の市長からの諮問に対する答申案であり、委員からいただいた表現等の修正意見を反映させています。答申には、これまでの取り組みの評価に加え、付帯意見として「実施体制の強化」「マネジメント手法の強化」「マネジメント体制のさらなる充実（PDCA）」「災害リスクへの対応」の4項目、さらに委員の提案により「市民とともに」を追加した5項目を記載しています。
- ・ 委員：10年前の第1回目の計画策定時あとのように付帯意見をまとめました。中の議論を知らない市民が見てもどのような話をしていたかイメージが湧くよう、わかりやすい言葉に修正し、マネジメントの体制と手法をしっかりとほしいという内容に集約しました。特に、大きなPDCAを回すための「仕組み」を作ること、すなわちいつどこで誰がどういうことをやるのかフローを議論しておくことが重要です。また、優先順位の決定など難しい課題に対して、行政がリスク等を隠さずに正しく情報を発信し、市民と共に考える場を持つことが重要であるという観点を追記しています。
- ・ 副委員長：災害リスクの項目について、防災計画等との連携が必要ではないかと思えます。
- ・ 事務局：防災の視点と災害後の対応の視点という2つ視点があるかと思えます。これら2つの視点を持ってインフラの機能をどこまで確保するのかを検討するために、防災計画等との連携は必要だと考えています。
- ・ 委員：防災の視点と災害後の対応の視点を持ち、インフラの機能がどこまで維持されればよいのかという視点を持って連携強化を図るべきです。また、復旧にどのくらい期間がかかるかを見通すことは難しいため、災害が起きた時のことを真剣に議論し、復旧シナリオを考えておくことが第一ステップかと思えます。
- ・ 委員長：最適な機能を確保できるような文言を追加するということがいかがでしょうか（委員了承）。
- ・ 委員長：本答申案については、委員長にご一任いただき、最終調整後に確定させることとします（委員了承）。

- ・ 委員長：計画本編の118ページ付近にある、計画改訂前後の効果を示すグラフについて、「改訂前（事後保全型管理）」という表現だと、改訂前が全て事後保全であったような誤解を与えかねないため、表現を工夫してください。また、試算におけるデフレーターの設定条件なども補足して記載するようお願いいたします。
- ・ 委員：前の計画をどう振り返って計算したか、計算経過、根拠をまとめておかないと後で担当者が検証できなくなるため、前提条件等の関係が誤解なく伝わるよう、可能なら本編へも抜粋で補足していただきたいです。
- ・ 事務局：誤解のないよう表現を見直し、前提条件等の記載を追加します。
「市民とともに」のところで、情報を発信して市民の方と具体的にどう一緒に考えていくのかアイデア等を伺えますでしょうか。
- ・ 委員：1つは分かりやすいパンフレットや広報誌や行事がある際のポスターや展示、シンポジウムやワークショップなど議論をする場を設けることなどが考えられます。その際、市民に対して、リスク等マイナスの情報も積極的に伝えることが必要かと思います。
- ・ 委員：「市民とともに」に関連して、ロンドンの緑行政のウェビナーに参加しましたが、Zoomのウェビナー機能などを活用し、担当者の生の声で発信していくのも市民に届きやすく効果的かと思います。また、市民団体が政策へ深く関与している海外の事例も踏まえ、今後どのように市民協働を作っていくかが課題だと感じます。
- ・ 委員長：市民の方が手に取って読んでみたいと思うようなわかりやすいパンフレット等を作成し、積極的に発信していくことも良いと思います。
- ・ 事務局：本委員会の後、委員長と事務局で調整して答申を確定させます。その後、4月に内部会議を経て、計画案を最終確定する見込みです。完成した計画は委員の皆様にもデータ等で送付させていただきます。

(3) その他

- ・ 委員：インフラ全体の視点からマネジメントを考えることで私自身非常に勉強になりました。
- ・ 委員：計画を作っただけで終わらず、現実の問題としてうまく調和させながらやっていくのがこれからの仕事であると思います。
- ・ 委員：多くのデータが集まってきて議論ができるようになってきたことは、誇っていいことです。新しいやり方、仕組みを作っていくことがマネジメントであり、これから明日を作っていくことを楽しみながらやっていただきたいです。
- ・ 副委員長：良い計画ができたと思います。計画は随時見直しやチェックをしていくことが重要であり、今後のアフターケアもよろしくお願いしたいです。
- ・ 委員長：この計画は、市のインフラを日々管理して下さっている各施設の所管課の皆様にとって指針となるものであり、インフラを持続的に維持していくために、引き続き取組をお願いいたします。
- ・ 事務局：～本日出席できなかった都市整備部長から委員に対して「2年間のご指導に対する感謝と、今後も鎌倉市のインフラ管理へのご支援をお願いしたい」旨のメッセージを代読。事務局からも、委員への感謝とともに、今後の最適化の具体的手法の確立や体制強化等に取り組んでいく意向を述べた～

6. 閉会

- ・ 委員長：本日はどうもありがとうございました。これをもちまして終了いたします。

以上